環海異聞

拾一

No 11

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No.11
1909407
ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之拾壹

都府滞留中之貳

國王の通りしの[illegible]まみまる事なしむかぞ
またてゐる車つるなりと云

漂流人外おの[illegible]ハ[illegible]も云ゆく毎夜車
馬なりと是無異国人[illegible]式ハ人々集り
こゝ[illegible]へし[illegible]ハ[illegible]の事々
[illegible]せしのゝ如くなり居しとてかく
[illegible]居しと下[illegible]しなし
先帝の時無通行之[illegible]車の馬数百

上
瀬ヶ
武笠
崎

五十丈又四百丈もあらそれば万に餘今
に於ては質素をもつて馬数四十八を
かぎりとし万緒合質是にて其用足ると
つゝ是を以て其用の費なし前
時(比)行れはこの度筭約なり
是陽帆の両中一位第一のことのかぎりと又曰我こムスクワと
旅りし時も移動し通りし供人数なり王王の行幸陪馬
の同勢別て変なれば我等の往来にて遠に
相にあるしとぞ
居餓し前にて足軽数百人一組く色
かぎりの装束をなし該炮し足場などを
なれ各時國王ならびに高貴の人に馬に
のりて変にあらく実検せらるゝし月に

三四節もみ候し是をオシキリセンヤ
しと云日よりなるを是恒各々族絶
をとゝろ肩并足并を持ゆく祝を出し
王の見ふの前をくるを過しく通る
処に令人立おく其行列の様子
時当を太鼓の鳴るものなし指子に恵
しく近退ゆるよし然りて分漏く此
日王無出て餓門に行る寺院にしづくら
こゝなる是時のこ掌く其式を見守候
の外厳懇なる事のよし

都の廉を日本里数の三里四方も行候し

吉町の長サハ日本の一丁ニ至ルかし長よか
と云ふ也 按 里数のことは本編に詳し
町に辻ニ家造ニ石造ニ結構ニ當家ニ掛ひ
く立派なる家作ニハ富有の者のこと也 今世
造築ニ成る故如此能家兼堅固ニ家ニ掛なる
とぞ貧者の分ハ家借家の居住なる保貧
者とても概貧ことのと云説ハ如何ニ而ニ乃
大造の家作ニ無自力ニ無出来思ふ云程の
家なる堀川多つ横ニ通るまく江戸御府
内の如くとなる也

書物店呂(ゴ)綾(フク)店時斗屋なと多くすをかけ多くすを大
光曰凡其商店ハ多くこ其すくあるを二階に下屋
となるを二階にも折下ゝ成人の往来の通りを町並
ハ市店にあらず皆六階低つをなるを王居ハ五階なれ
ども営作廣大なり想しくし下屋ハ出買しくしの
並なるを二階ハ厨(クリヤナフニカ)三階ハ住居四階ハ上ハ庫蔵
の用と其云云

瀬戸物屋も何るよしなれども是ハ見事ニ候

一 柏め屋も何るよし是又ニ見都而家めなるものハ柏
め場へ行度停止ニよし市中茶居中もなる

一 匠中と合もなるかけるなる

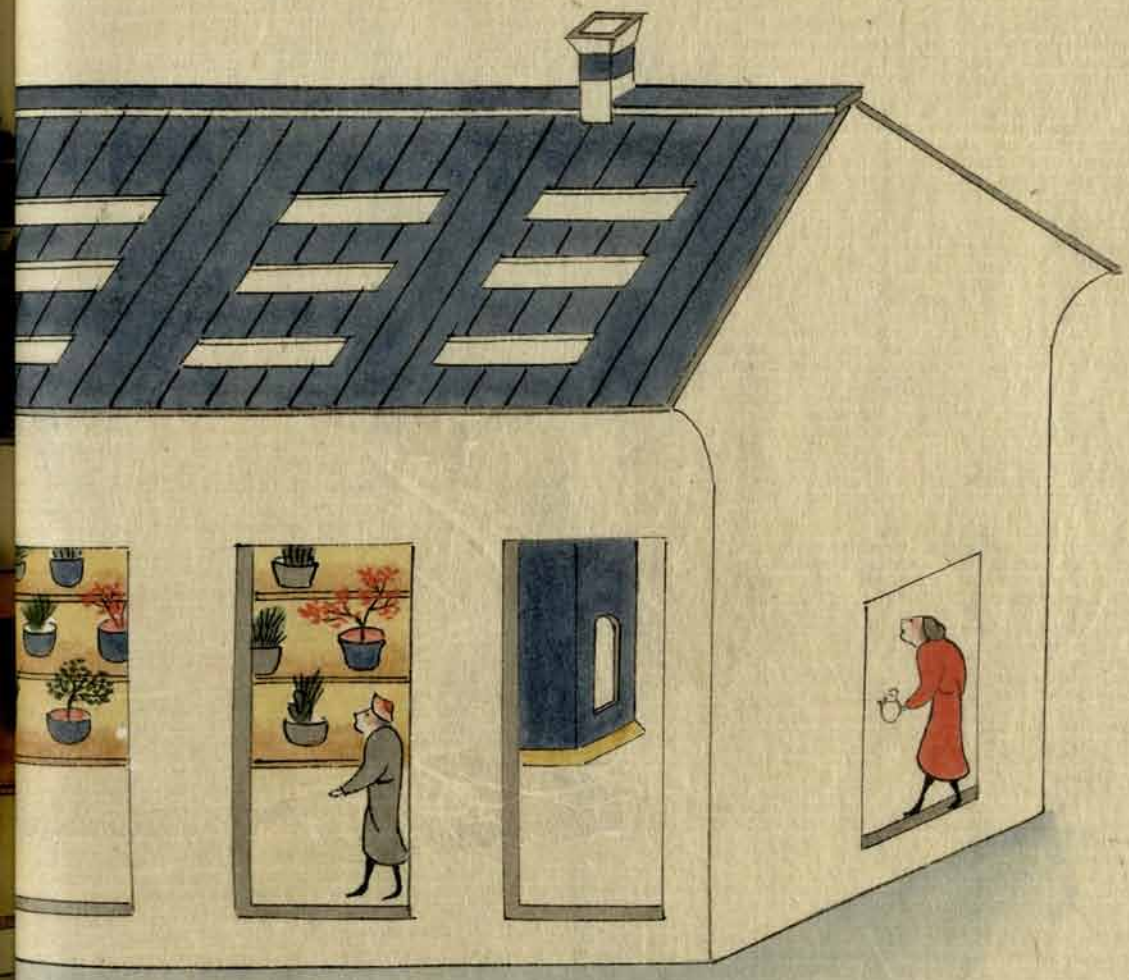
一 穀物等小ニ見なるく自由なるを田舎にハ糞と
いふ度なし

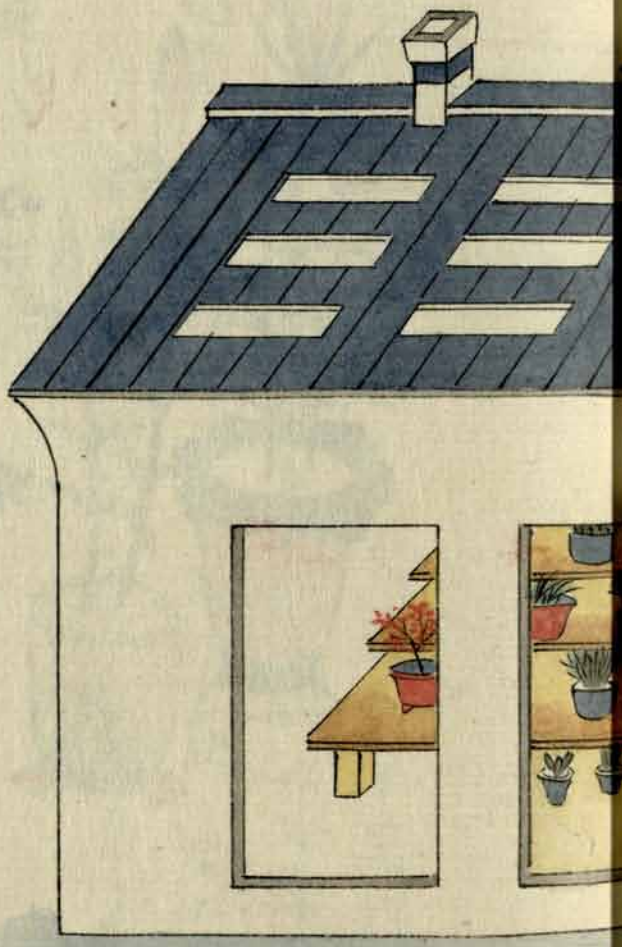
前ニも云るめく出りて府内を通りせし度
なく外出ニ成毎車立て云と諸障子ゟ漏見る
ことなれバくるしきなる及ハ

一 一自玉王の河源処と云わくをし一見いまをせし
れなる

桜ニ御座処と云度を何といひしも別殿
地蔵の地なる事し光太史曰此処をツワ
ルスニイセロしといふ国王五月の晦日寄ニ引
移りて七月晦日を居住しのふとなり

此処一朝下ちるを九八里有り此所筋川ぞ多相
なりこれ大道なる鉄の欄干有先へ行ふ諸十
里程乃当長屋のぬく速なるべ多るその所是
鉄柱をの乃室なり戸ありしよ手品茶種乃
ちあ柱をなし屋並ひ室ハ室れば階内へ入
る屋根を硝子障子にて日乾なる根に志
る事





其前殿かまへの裡へ乃れハ大泉水池あり箱根の湖
の裡もある屋きゝ其内ニ軍船の雛形ハ浮め垂者
ゆ三階作りとゝ石火矢窓もあり終ゝに五六人ヲ
警候屋し寄籠なる作り方なりとも見せし
とゝく近くでハ見ず
厳閣あり内の様子ハくとしく見ず芝居ゆもあり
是ハ其物中ハ付ふれ多り次ニハ多く
廣庭ニワの裡ニ長立町裡の椰ハ架し是に纏ひを
びたりし異木あり筋ハもしく枝多れく根とな
りし様子なり葉ハ樟に似てぬし常ハ紫
にて茂豆のぬし

按ニ此木榕樹ヲ居ミリ南方草木状曰榕樹南
海桂林多植之葉如木麻実如冬青樹拳曲云云
又枝條既繁葉又茂細軟條如藤垂下漸々
及地發稍入地則生根節式天樹株有根四五
処而横枝及鄭樹而連云云又此樹支桂海
虞ー衡志南雜志五雜俎百川草海槎餘
南産志廣東新語等ニモ出ス和榮ニハ「ウラル
ニアルホーム根樹之事」説曰其初生不異于池樹後枝
上生細條飄蕩下垂及地分生根久而集大株
共本幹無異無牧連絡集巨林其高多矢枝
葉蔭之周囲五及意太里亜里法之一里者

其枝條又各上細根纚之垂地迫望之殆如以
繩索拭樹板者
我邦薩摩土佐紀伊等古此樹有紀州方言
アコウノホト云根ハシコロホラヤノめし 琉球ニモ產スト云
薩州大嶌方言カスマルト云由し元ト此樹ハ唆地ニ
產スト見ヘタリ

蘭書所載ウラルニラルホーム圖

根樹

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

此餘にあれたる種々子草菊木あるを
鶏冠並石升並風仙並なともこゝにまを諸種
ハ今秋の事が我が事多く楠多し
其庭囲右往左往々通りの路次多くなる堆足し
金砂の如きものは尚じく思ひまをとこゝあかくも
れを
藥山の三ヶは櫻乃木もこゝ也
此芭蕉王皇后母后も除字あるを
其殿中の芸居をまをしに翁基十四程も
あらん見し四方は物をまく暗黒なりしめ黝しく
ろくなくなれんじ屋をまを意の如く寸此日無

王家ならひに陪従のかゝるくに漂流人のことく
外に者に見物なし王の見物処は正面なり此
処へ國王の侍ていらせなふ故れ国に翁基にて
笛太鼓なる故なりしなの者声に熟し
王の歩行も松子なりしいまのふるまな翁
基の前通りを伶人兼居太鼓琴胡弓等の鳴
物故なり只浄瑠理太夫のぬきこゑの本故拍手鳴
こゑのこあるせ音曲故なれ翁基にいふくの絵故こう
きなる幕をとりしよ粗言の仕組は読坐の事故
いまだ松子なり幕事に仕組かまりいづきこゑの
といふへば本坐の事故ならば時を熟しく

幸国風なり

草鞋を履しこのあるは昔ハ彼国の土人
はじんしを用ひしとこへさるを大元曰草こく作所
又黒人国の夏を設ひ時無家作も并に
男めとも思く彩を装束せの外にて
其の国の風俗なり戯子ハ男めこと男無
男め無めなり男こてめ形とこ夏なし
ぎんし乃写こ老おこし姿かまり翁基へ
曲づ言語をしらに通せ法ども一体こし
様々相ハ諸主ハ無等の志ぞへと同様
なる由し所なり面ぞり乃種言無男

女格五人程以て百万分れて踊る其中
分し多の出基の三よめ三人のげ居
る其　志ぞくと縮り下へ落着くと
其の女子飛下り踊れるもあり其人数
踊り百万五六人程も飛あかり一と足こくく
るくめくりくく踊るもあり此時見物人
ハ手拍子をくほむるなり王感しく手
拍打度あれバ余の見物人こなこれに感
しく打拍をなら思ふらしなりあふ
間しし右し踊なり一ツ分の仕組ハ語も
まかしし思ひ度なくしくハ合点せ

し度なかなとよ

其後又一日市中の大芝居ゆ見物をし度
あるを家ハ石造ゆ屋根丸く円も熱鉢丸く
作ゆ多るゆの之見物処ハ土間棒鋪と云屋
さ三面脇ニ下ゆ〳〵柳かなゆ多るゆの女ゆ
女人日でも居ゆもかまへ之是又日方ゆ如き
ぎ暗黒ニしゝ蠟燭を点ず家の高中ニ
ひへど路の大修篭ゆ下ゆ円ニ数挺の蠟
燭ゆ点し嶋羽ゆ脇ニ下の方程蠟燭
の数多く仕多る仕ゆけ女ゆ誰ニ明朗多る度
是ニ帰れゆ程よくゆ物ゆるゆの無違自説

典月うねてくてたれし居る

此ちぐねも玉王ゟ建立るよし本
戸諸吉人家調諸五百枚以、なりとめ此
刻合あるゝや此諸も上へ納るよし
其后相宮の仕組なとかまる事なしおこハ
王も見物に入らるゝ此以事出見えて
お陰の獲是も設け立りつと

此日物語ハ夜ニ入ナルヲ五月の末ニ笑ヘしハ
物ヲハ羅紗の合羽様のものにて若用セしハ大
いにこゝ次ニ笑ヘナルヲ
又一日榕子(スラコ)御覧しのことニ処ニ切ニ見セ
れ為ヲ
此処町の中一町半四方の長屋がまへなヲ内ハ
吏ニ仕切あるゝ大小の御童居れヲ入口ニ其
子供の名出付くあり
御童の外処ニ床臺見由乳母もあり継載あるゝ
其ニ飲食等其役方傍へ来ル養育ハ生長
に候ひ吏ニ申しこと奥いなるゝ其の好む処乃

業務教由と云此彼門にある処の男め生長の後
色々細工ものなともなし公立の利用となる
前少なかりしぞとなり
按々欧邏巴洲地方然の設あるよし明人
幼境と称るよし是なる歴し漂流人等
こと語なくしくうる夏疎漏送恨と云
し且百光太夫か話我傳聞せしに朝
府中設る処の幼境大造のうまへなり
其うまへの内通りに外方通りに移り
居あり是ハ又々往来猪手次第なり
夜々入れハ隙お入れとむ夜玉中貧

窮なるものの子ハ生るゝも養ひそごくむ
屋を得屋なく国庄得るものなし
国王為全の事便ハ行く是ハ建つ表通
ゆゑに言あり捨ひさんとする人夜中
ぜとよゝ重ひて言ハ多ゝお者なへば
内分引かしのめよ給ハいなれ其
其内へ其の児ハ入れむ其子の生れし
年月日時ハ記し多る婦女ハいれて
喚るなり内ニいこれハ請ひ置て乳
母にて育て生長に従ひ館内にて
諸藝者の師道あり事まゝの事ハ

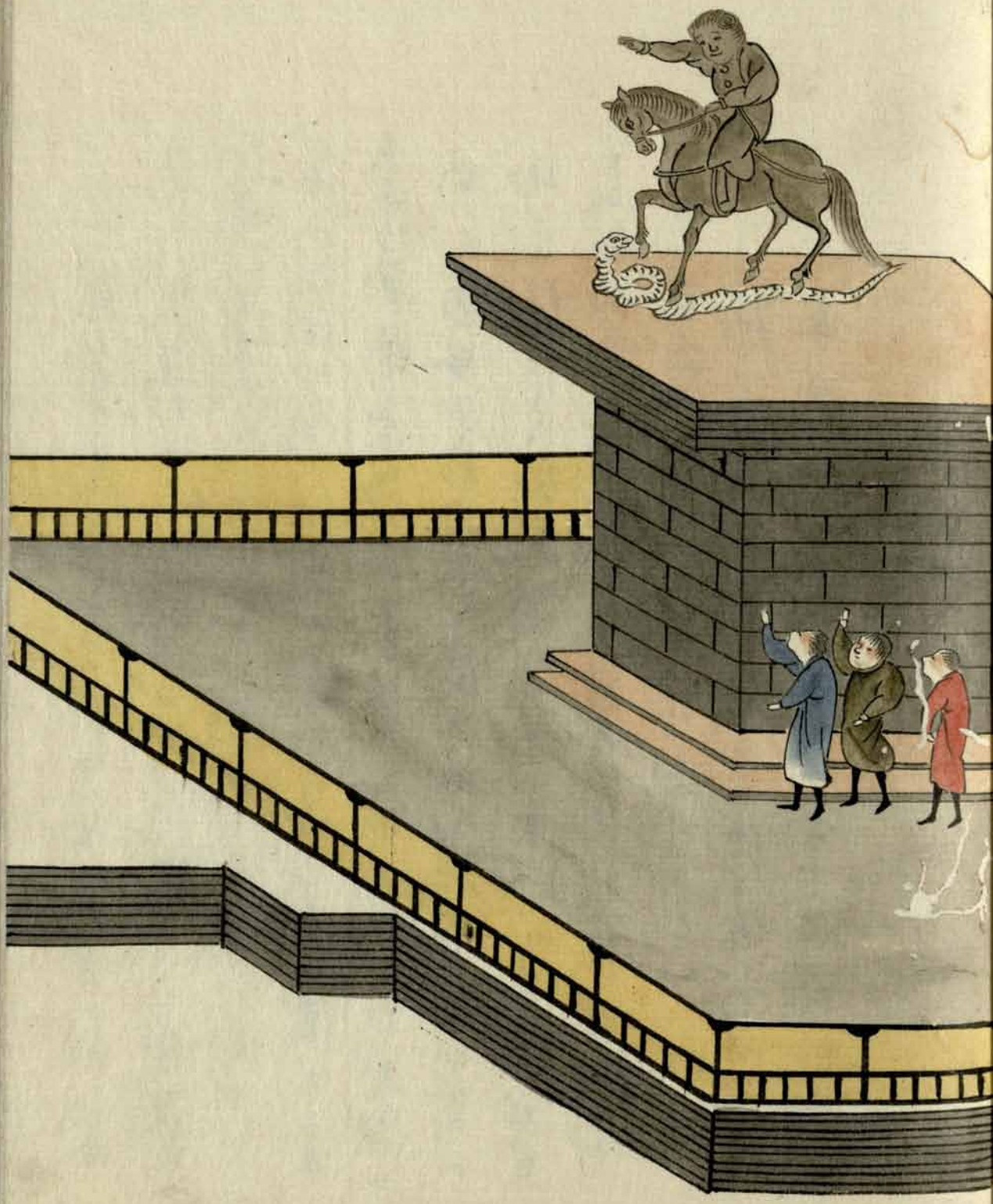
をあきしめ男め兒童の好む処の事業
に行をつかせ後しに公用に便役をなす
事其兒童を亦亦の戸口にて何月幾日
何時生まれ子といふ事を書きたる札をつ
きしめ其父母あるもの皮の悲(ヲン)使にて
何れ程育ちめ事あるしかやといふよふ
何れ安心の時無右に通り板戸を通
事左右の札をはしく是其我子なりと云
事を都事一年生長の程も時しみる
なりまゝらの為に出くこそふけ亦事之
為をひ戻しく我々家にいれんと思ふ時

其餘ゟ入れし時の年月日時を誌え
彼処へ彼へハ居しゟへぬふなれ此時定
式こくきし定量なる銀子を賜ひ且
皮の費用こく育くぬふへなれバと
て一皮舜を授けつへしゟふなれこ
れに依る王中諸傍に捨置といふる
なしとなり

病人養生所もあると学ひ是ハ嘗のことて
一見を見
按りに左に田舎にも設け置となれハ
かならず大役処ゆゑ居し

名無何といふ事成的人ハ是を福院と称
せり其後も処にまことふけ何る事とこの
都府の国にまへ事
ハウラツケと云ふ所ハ町之内廣場にて火除地
の様なる処何里ニ寄無給下のまゝ中にも何なる
処と思ひる事前の事ハ是恒寄処ハまへ西川
西川向無町屋にて無業の所なり其廣場
に此都をひらかしく帝王の位を始しと云
王の庫金像何里其丈何も人程も石を無
たことなけ迫り無談にて之日格別何方に
玉垣を囲ふ故其基之ニ庫金鑄拘らく

つるに家をなる王の像となれば左のかたを手
綱を持右の手をのべし馬足に大白蛇を置
させなる神之なるを老人分おこるく比ハ峯元教
を逞しく耳も鼻も至て大なる
往来の人通りをかゝえ過ぬとゝく獨
を居る事と云事もなし然るのぬれ
佛しとも云べき根なるなる



此王の名ヘ干(テ)ルハイトロハウロイチと云し由
大光曰ヘートルヘルテイし和葉ハヒトトル
コロートしと云よし
此地ばハウラツケと云もハウロイチの像あるな
とあるを王王ウラセイメルト云処の人こそあるし
漸く玉ばひ傳め帝位ばぬミ此ヘトルフルカの
地も係せく新都ばひしおしと云あるをなせ
る白鉈ばこ語して法成の雑体ばなひし
とある故此像もまばらつせるとなる
按ニ説説曰囀羅(ウラルロシー)第墨兒(メル)屬十四魯西
亜暦数九百二拾八年 本朝延長八年ヨリ

魯西亜王家に於ては一千三百年 朝本
正安二年 此地分都ゆもモスコウにうつす此府
名にモスコウの東にあり
日本星数七十五星名とウラセイメルハホノウラロシ―メルなる
ゆ原し 此形都ゆ異し 由来年暦并に
其王の傳記法書に見へ説明にあり
左平傳聞に此都京は「スウヱ―ツケ」の説曰
くしあるしか此王の時に入れさるとなり此王
諸藝に通達し 諸国ゆ經歴ゆる度の際綿し
おす細工乃るれども警告せられ自ら能ゆ
と云えるのども一ノステライと云お寺に納め

並りもと矛の造りも此国にて無し此王
よりもはしめると云又法細工職のものハ其ノ細
工に奇なりて言ぬくこもなり多く股十分なら
されば能き手きもなりがあるよこのなりと自ら
工職なりしく試ニ志るべなりとく法職
人へ後ス持分猶りの多ふなりも其職分れ
恩る法なり定めぬふとなり
一日都下なり余はども称れしハ一ノスニテライと云
大寺へ一見にをしあるを
其地へ至りしに大寺あり石造りなり円にハ
金銀にしかきりあり仏像ありしき中に人

長ケ三ヶ年の仏式を擬をうけ給ふもいつれも四面へ
新にうけ給ふ仏像を像を金銀にかきを給ふ故
光明旅耀給ふ
寺中に靈屋のめに処を異宝鞠しく義
め重ましへテルハイトロハウロウイヲチ王の五世
の時用ひ給ふしと云枕又長サ三尺五寸餘ま
を有談の枝あり莽葉の内へ是は仕込なり
又何ものか志ら貝南洞の板に横文字を出す彫ま
有たるも有一生外王の手細工之品とて種々あ
ましあけて枝へ立しかるし
此寺を法王歴代々灵屋を有ると思ふる和

尚伴僧とも云屋きこの七八人百余しく漂
流人へ出会を見冠里ことの黒縮緬にて日本
に始人の用る袖反ゆしと云ことのに似たる下着
ハ筒袖にて ケレスといふことのに似たる具上衣を
スイスタといふことの府をしる物なり 国王の所衣と
大抵同し 根にて西国所の新蕊ハ本国の家
なるに入りし由いひ以れハ和尚経文のぬきことの
をかしよへられたり
拠ニ二ノスライハ尼寺の夏当ゆれぞ
尼僧なる屋し 此寺の縁記くらしき
夏何る屋かりしを一通りに見通し

無送帰なる

鎌下第一の大寺なると云処へ一見志るなる名を
イサカツケセルコフといふ町を程こゆる石造る
柱等ハ磨よ立さる石にて大造なる経営なる
薄清い国家全体せきるしと云前代の王の
送骸をはしかるめ棺へ歓め一年に立変ゆく
罪りと云此尸むかし無ハウラセイメルと云
処に埋葬し亜けるに其墓明なる怪しお
和立し故国なるしとれば其尸生人乃
めくこくあるしと其後此寺へ移しかく
ち寺造立せしとなり

拙ヘトルフルカ都府の図六十三符号
無アレキサンダラ子ユフスケイの寺観
なりと云
和蘭北蒲涅西所撰輿地の書に此國往
考し賢王アレキサンデル子エフスケイと云王英
雄にして因徒弟なし人なりなに今こゝ云く
土人是緒はつゝんヘトル帝新都を建し
時に此土柩をウメロシメルの地よりて家に迁しく
寺観を建ありと云潔人の語と符合し
陶帆の前係若レサノットの家に往しに日本天
国寺程なりし小人を見ありて遂家乃里中

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

の食盤のことのせ蔵事しいひけるは漂流人は
きしく小人に告しは彼に無日本国の人なる
なれもともに彼国へ流る屋し金銀二十外の
其ことの品与へつるべしと載れたるれば日本へ行
はいやなる彼人は日本に無何る事しカメイカの
人なる屋しといへる此小人何方なる事
と問けれバカルラと人に答へ(コタ)なる是国の名なり
小人と云想名か詳にせざるなり小人年廿七歳
なると形は小くして賢もあらく年齢分始け
くみへなる詞もヲロシイア詞もほかひ服も
本国の物を着をり

桜ニ小辺の境ニサモヱランと云国あり
其土人皆矮小なるよちかに比ヲロシイア
の処所となれるかなるに其国乃人なる
屋しサモヱテン説説おこ望世ニ小
人島と云夜あり夜ハ湾ニ在あらはれ
カメイカハ何れの地方ニ志れど
しちか比オロシイアニ属せし
国のよし湾家ホイルコーツカ
遊留中カタイカ人と云をうる夜
ニ神あり髪髪白く頭髪魯霊
人同様なれどもおゝを日本人程

右見聞の事も百ヶ一とも云難し（カルベ）皆々お
行の車馬乃と里扱却ゐ見物に自由なるを
と又無家無心の疎漏なると二ツハ止む事を
得ずと云居し和業出中にヘトルフルカ
の都府圖あり是ゆゑ示せるに望洋と
しく考ひ寄ち難し彼ゟ是ゟとせし
とあり萬質多く其圖ゆゑ異語ゆゑ附し
多ク考の一とせり
其六月十一日と覚へ此ガラフ台海人ヲ此くせ
ら海しハ此夜日本へ係舊船海いゑし
此ニ有兼ゐ物玉願ハ漂流人ども口人右船

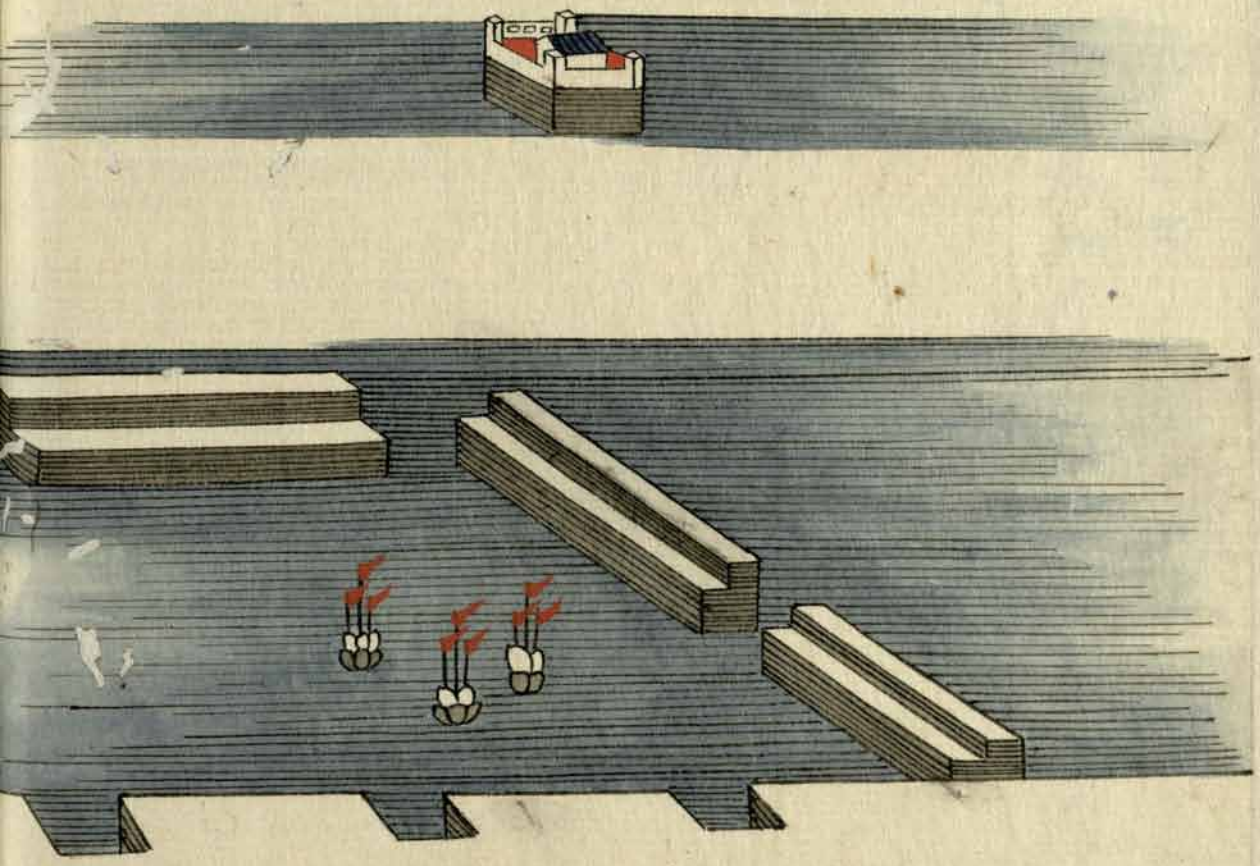
入門船送りて座に写出立用意にて一ツ鼓鼓なりて各々
大祝しく一日に郡内を請ひしなり
但人は侍者に役レサノットへ呼おきれ中誠
船中用に諸品衣服なつらる
翌十二日津太夫儀平左平太十郎此処出立居
のことも出人のことの共に帳を拾ひしを旅館中
笠と一厚くを話事し人々へも更々つれし
こゝ御礼を告げ立此刻カラブの屋舗家来
屋本の家河分出に小舟に乗りて荷物積入ガラブの
役人三人ならびに新蔵も同船し小よりも
南へ向て川筋海を船りて川はじを次

永々廣くなるを五十五里行くカナスタと云処に
着候

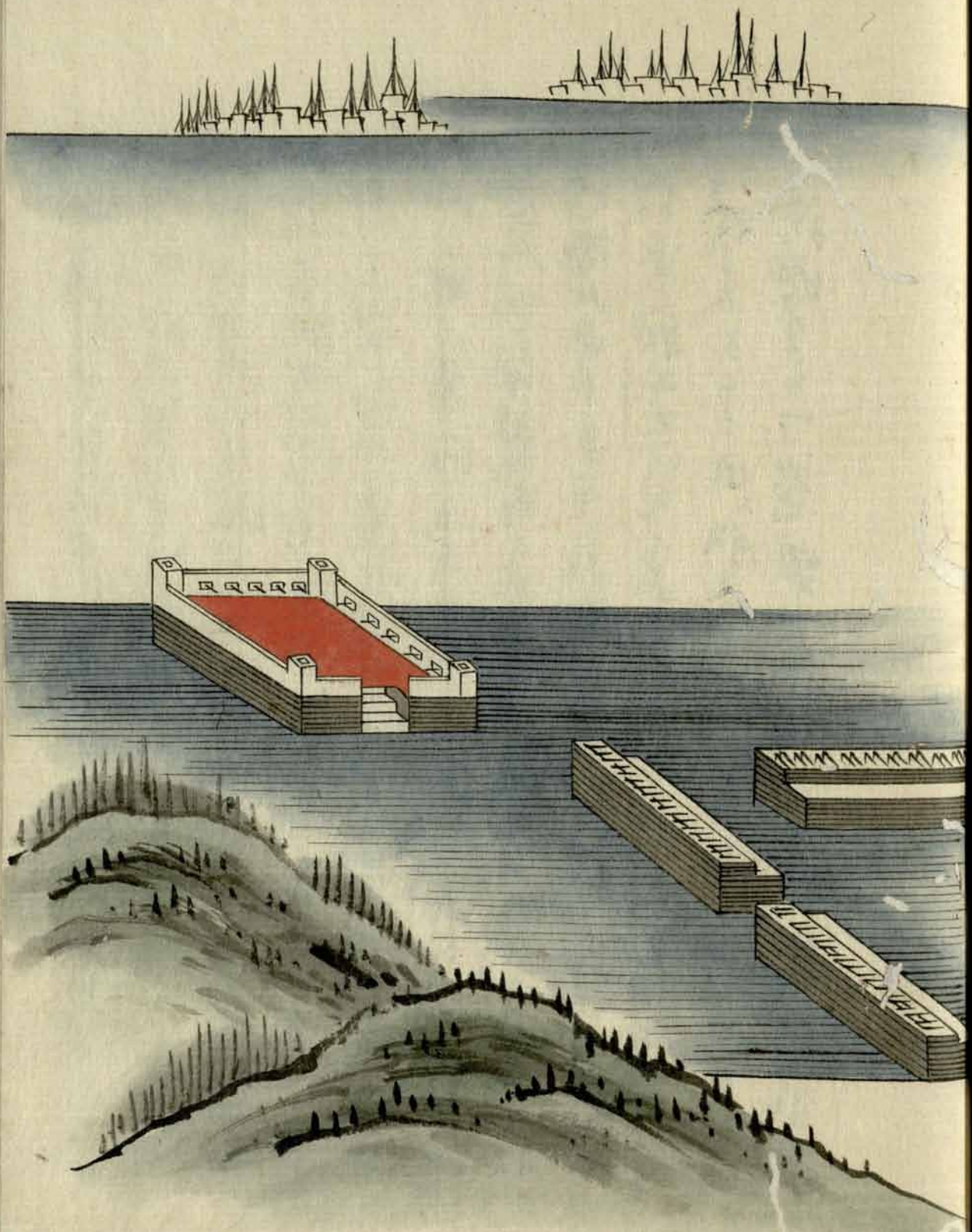
此処へヘトルフルカの都へ出口の湊口のよし
至て要害の地なるとて此辺にいるなるに
こなとのめくに見る月十五日とて此処に
永かゝる　桜に和菜に云オヽストセイなぶし
此こなと地高分き五里の間切り石に築出し
海へおるなる其先へ長サ三里横き里半
余石垣つき也　囲かこひの内汐入るに
前と左右とに船の入る口五六ヶ処物云ふき其
間へ船数被物つなきを此内に軍船小

あるを何れもの事ゆへ事ひ小示も此内に祝す
事候
此国は東沢石垣の三面にハ石少く矢数校居へ
並其側に玉も夥しく重給あり書処も
ふくく
此処他国よりこなやとへ船の入口なり要害の為めに
かくのまへ為るものと見る
又此処より向に当事却石にしあるこあけ為る
小島は他れ事一里四方もあるべしこれ中
に陣屋やしのこの様建川三面に石少く矢様
あらべ江へ並都の方へ向ひ為る方ぢかつて

これなし三両ハ用ゆゑ如此至くげん
皇なるを其左右様大家通用候一般當然とも
云度を頼なるを



ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM



此湊人家卅千軒をある様々ある由沖の方
ゆきむる諸国の商船三本の檣の数百
被ミ由大小の船とも帆柱の立ならべるは恰も
雑木林のごとし其数幾百とかかるかなし此
内々は本国の商船もあるとも是外国人に無
い来る軍船もあるかとくらべし為なるとも云子也
百人の事の自国の軍船も変るかけると云此船
は檣五本多きを自しは山のぬくミ出るかと
る軍船のおひなるの此国にてしめて造
ふるもなるも此船にて暁と黄昏と大変なから
誤絶をなつ是軍船の大法なるとも

兩船中ニ在葉國もあるを牛ゐるの厩もあるとなり

右大船汽ニ於る蒸湊あしをなるには本船の面船へ大なる二重船後を艘いて多の翼のぬくつなる府面船のうまうるを志くあるとなる

按ニ此カナスタと云湊無和葉函ニ於しを呼る船のコローンスロットなるか和葉人の出上けるコローンスロットは於く彼蒸船の用ことあるしと知れバ之和葉処撰魯西亜志ニコローンスロットハ新鋳ヘヘトルフルカを云ふ夏イツラントの里法ニ於ケル里船湊今

の夢湊人居蕃暨なるに夢の書をう
遣て此処なる高々所徒海に浮と云々
大光曰カナスタ冬カランスクンオストロツ
なる原しし地方にあらず鴻まく都合
五星原なるて里といふ
再ひ源の携(タツカヘ)来る国大海分国を當く
国にはるにヘトルフルカよりかしを取礼
多くの島あり其名は彼国字なく而て。
山与五十五与口と記せるかなる原此処
は力十七夕と字誤りもなく云なる原

閏十三日は後方吉星修沖へ哨（テンニ）船にて漕出
し本係舊船へのも得も
係舊に役レサノット先達高船の中に行つて
船中諸事の用意あるし船反其外
まこの役くを引拘つて何れもレサノットの前
へ出る護送にあつうる謝義を厚く申
述せらるも係舊令にしく金銀二十枚を
被時年吉ツ寃お後ス是玉方各へ錫
る処なるとと諭にお謝しく是を請く
ガラフハ前以此船へのも込まるに生外申
渡しの事もあるしよし因何れもへのね

拘も出こうれ後こゝやよ皆こゝお船も迯も本
船へ家組取らしまなりしあれ等の事彼
義へ附属し船へ帰りしよし途中行
違ひまなりしと覚へし是國王誕辰の
祝夏何るの日あらかゝ船りとこゝ急ぎ帰船のよ
船中こ人を話まを達る事事も此処と来
られ永こもかゝるものひ船中こ根子一語せ
られ目船のこの凡在て所達者こゝ海路目
無日本こ夏海もりましくこゝ帰られ
ふと命あらしと語れり
此日ガラブ分附添来りしこ人なるひま

ニコライ新蔵も帳をしく頼人物所を
本年祝家給し人数役人は大体所十人
をかけて祝事ここをの日格人斗も有し
と覚也　別巻ニ詳ス

漂客異聞巻之十一　終

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM